

がんの免疫療法

②自家がんワクチン療法

がん細胞の目印をリンパ球に覚えさせて
選択的に攻撃させる

自然治癒力を効果的に 回復させる療法

●がんワクチンとは？

がんワクチンといえばインフル
エンザのワクチンを連想し、「が
んにかからないように予防する薬
なの？」と思う方がいらつしやる
かと思いますが、ここで紹介する
がんワクチンは、がんにかかって
手術を受けた人を接種の対象と
し、治療後の再発や転移の予防を
主目的とするものです。

再発や転移は、手術時には検査
でとらえることのできなかつた微
小がんがもとになることが多いの
ですが、自家がんワクチンはこの

微小がんにより威力を発揮し、結
果的に再発・転移の予防につなげ
ます。また手術や放射線治療、抗
がん剤治療後に、再び活発に増殖
を始めた残存がんの進行を抑える
目的でも期待できます。

自家がんワクチンを開発したの
は、理化学研究所OBの大野忠夫
氏。大野氏は物理学、化学、工学、
生物学、医科学など幅広い分野に
わたり、基礎研究から応用研究ま
で多様な研究活動を展開している
理化学研究所（現在は独立行政法
人化され、ノーベル化学賞を受賞
した野依良治氏が理事長を務める
ことで知られる）で、細胞開発銀
行の運営責任者でした。そして2
001年にベンチャー企業、セル

メディシンを立ち上げ、ワクチン
の製造・販売、接種の技術指導に
当たっています。

「自家がんワクチン療法は、現在、
筑波大病院など複数の大病院
と共同で、臨床研究としての治療
を実施しています。また全国50を
超える医療施設が採用し、自由診
療として一般患者さんに提供して
います。治療対象となるがんの種
類は問わず、すでに累計1000
例以上の治療実績があります」（大
野氏）

●自然治癒力を 回復させるワクチン

がんワクチン療法では再発・転
移予防や残存がんの増殖を抑えた

りするために、抗がん剤のような、
直接がんを殺傷する薬を使うわけ
ではありません。人が本来持つて
いる免疫＝自然治癒力をワクチン
の刺激で回復させて、がんに対抗
しようというものです。

がんワクチンはそのためのきつ
かけをつくるもので、自然治癒力
を回復させる刺激剤の働きがあり
ます。その刺激剤の素となるのが
患者さん自身のがん組織で、手術
で切り取ったがんの組織を使いま
す。自家がんワクチンという名前
はそこから来ています。

●がん組織を使ってワクチンを つくる

手術で切り取った自身のがん組

●取材協力
大野忠夫
セルメディシン株式会社代表取締役社長
早稲田大学客員教授
●取材・文
高山 健治 フリーランスライター